

セブン銀行2023年3月期 第1四半期

# 決算説明資料

## Today's Agenda

**01 2023年3月期 第1四半期決算**



**02 成長戦略の進捗状況**

**03 APPENDIX**

**01** 2023年3月期 第1四半期決算

## 第1四半期決算のポイント

- ◆ 前年同期比で増収減益となるも、計画比プラスで推移
- ◆ 国内ATM事業は、件数・台数ともに好調
- ◆ 個人向け金融サービスは、おおむね堅調
- ◆ 海外事業は、アジアを中心にATMネットワークを拡大

## 2023年3月期 第1四半期決算概要〔連結〕

経常収益：人流回帰や資金需要の回復によるATM利用件数増加を主因に増収

経常利益：継続的な成長投資等に伴う費用増を主因に減益

	2022年6月期実績	前年比	上期計画進捗率
<b>経常収益</b>	<b>358</b> 億円	+7.1%	49.3%
<b>経常利益</b>	<b>73</b> 億円	△3.9%	54.0%
<b>純利益</b>	<b>49</b> 億円	△9.2%	51.5%
<b>EBITDA</b>	<b>118</b> 億円	+3.5%	—

注1) 増減に係るコメント及び数値は全て前年同期比

注2) 本資料における計数は全て表示単位未満切捨て

注3) 本資料における前年差異及び前年比は全て表示単位で比較

注4) 連結損益の為替レート

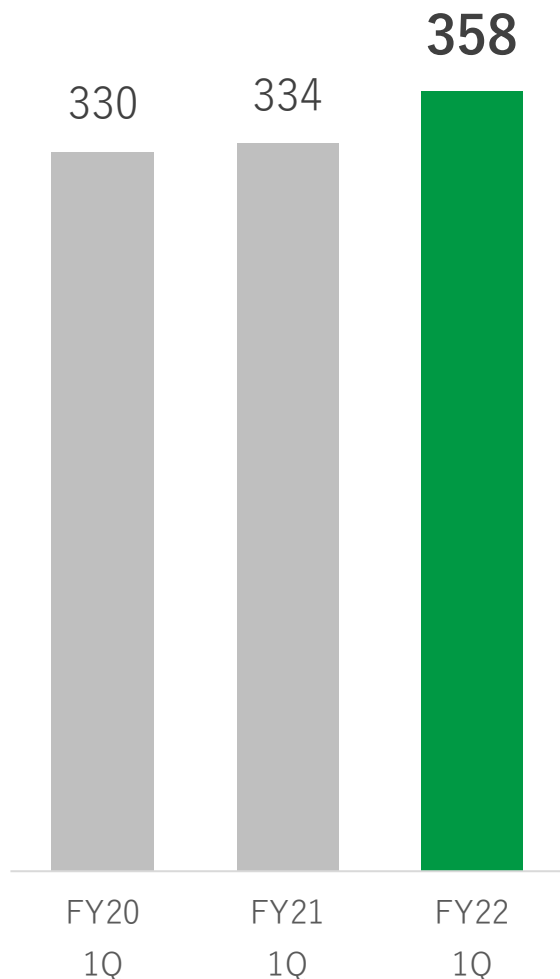
1米ドル：116.34円

注5) 本資料におけるEBITDAは全て経常利益+減価償却費

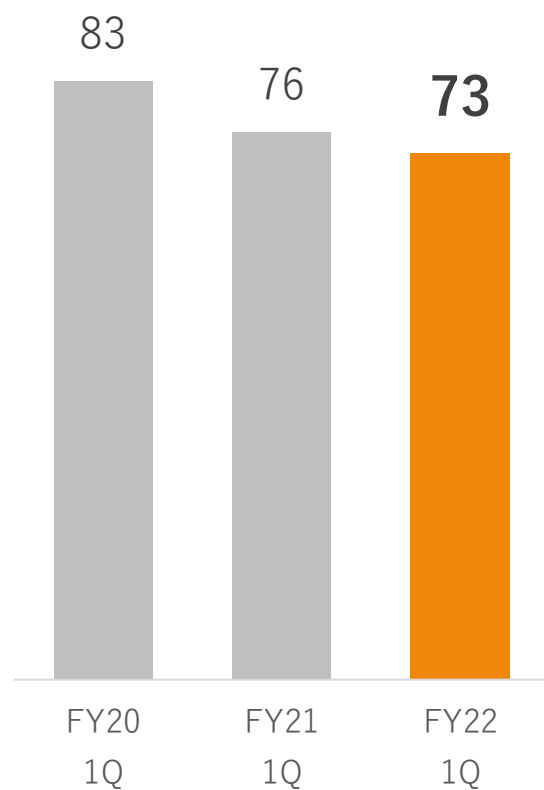
第1四半期業績推移〔連結〕

(単位：億円)

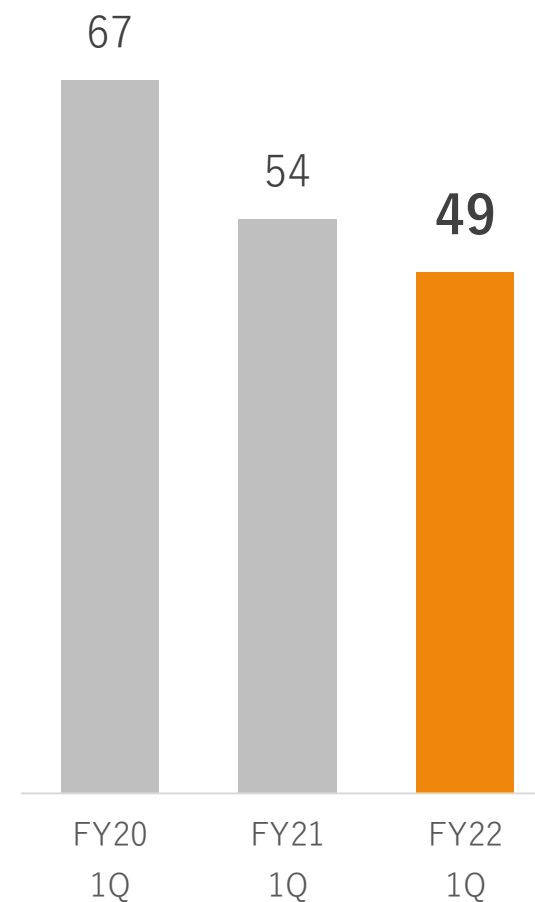
経常収益



経常利益



純利益



EBITDA



注) 本資料における計数は全て表示単位未満切捨て

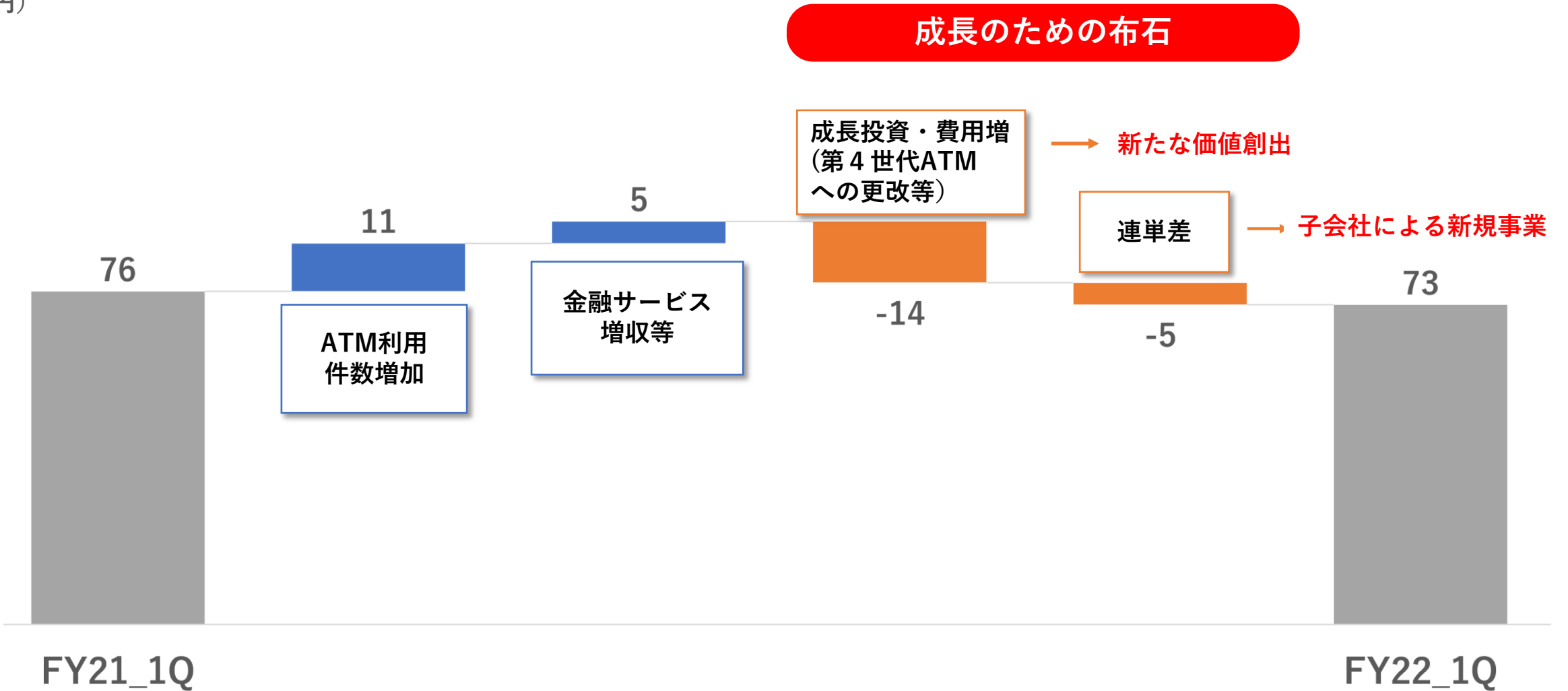
# 01

2023年3月期 第1四半期決算

## 経常利益の前年度差異（概算）〔連結〕

■ ATM利用件数増加により増収も、継続的な成長投資等に伴う費用増を主因に経常利益は△3億円

(億円)

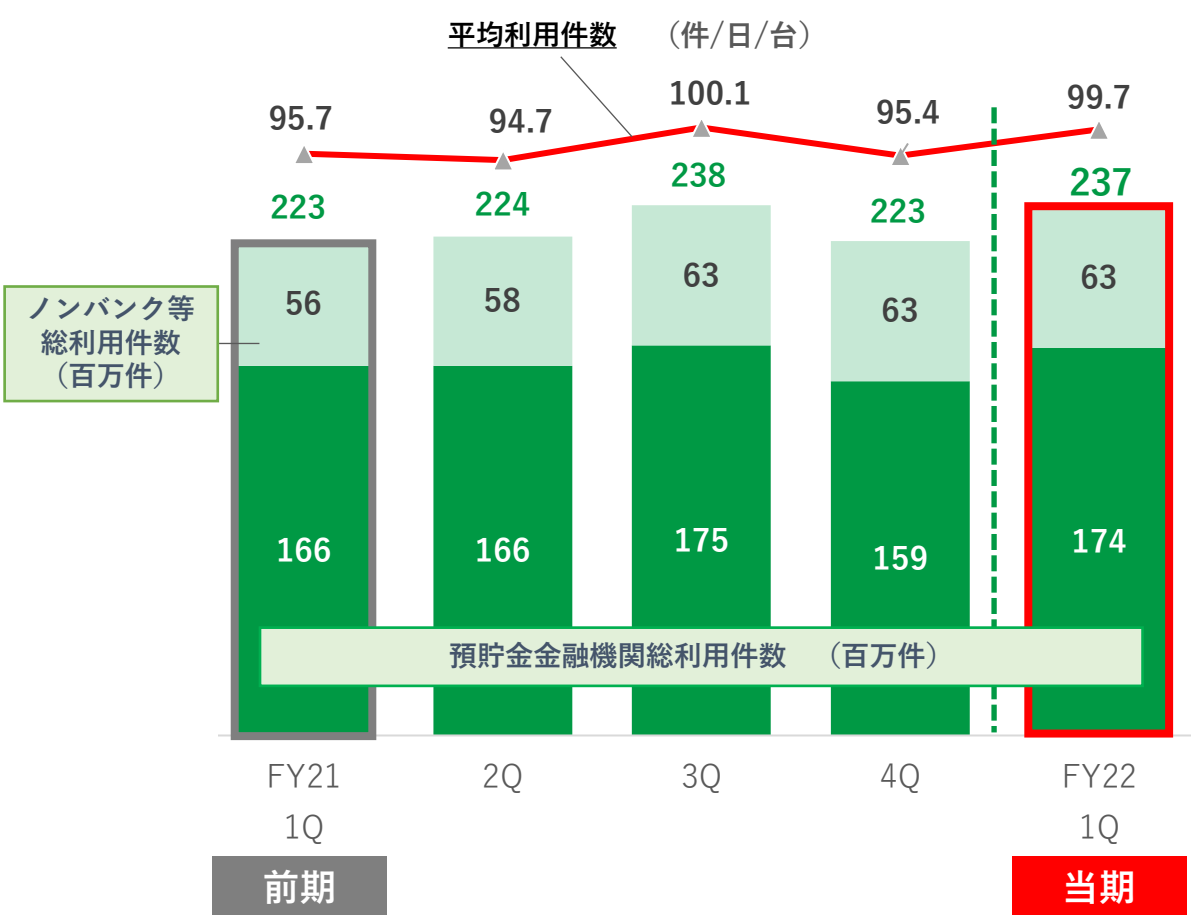


注) 増減に係るコメント及び数値は全て前年同期比

国内事業 (ATM) 主要計数

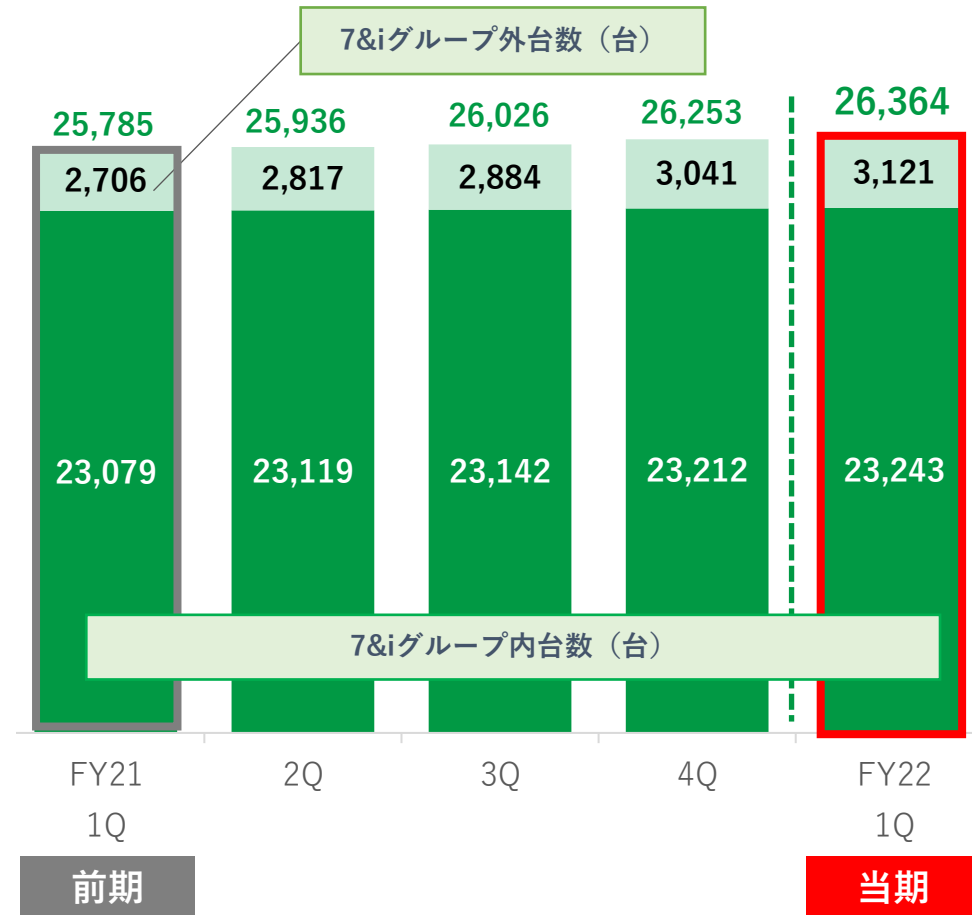
ATM利用件数の推移

■ 平均利用件数：+4.0件、総利用件数：+14百万件



ATM台数の推移

■ +579台 (グループ内+164台、グループ外+415台)



注1) 増減に係るコメント及び数値は全て前年同期比

注2) ATM総利用件数、平均利用件数には残高照会、電子マネーチャージ、暗証番号変更、利用限度額変更等含まず

注3) 本資料におけるノンバンク等は、証券会社、生命保険会社、クレジット会社、信販会社、消費者金融会社、事業会社等の合計

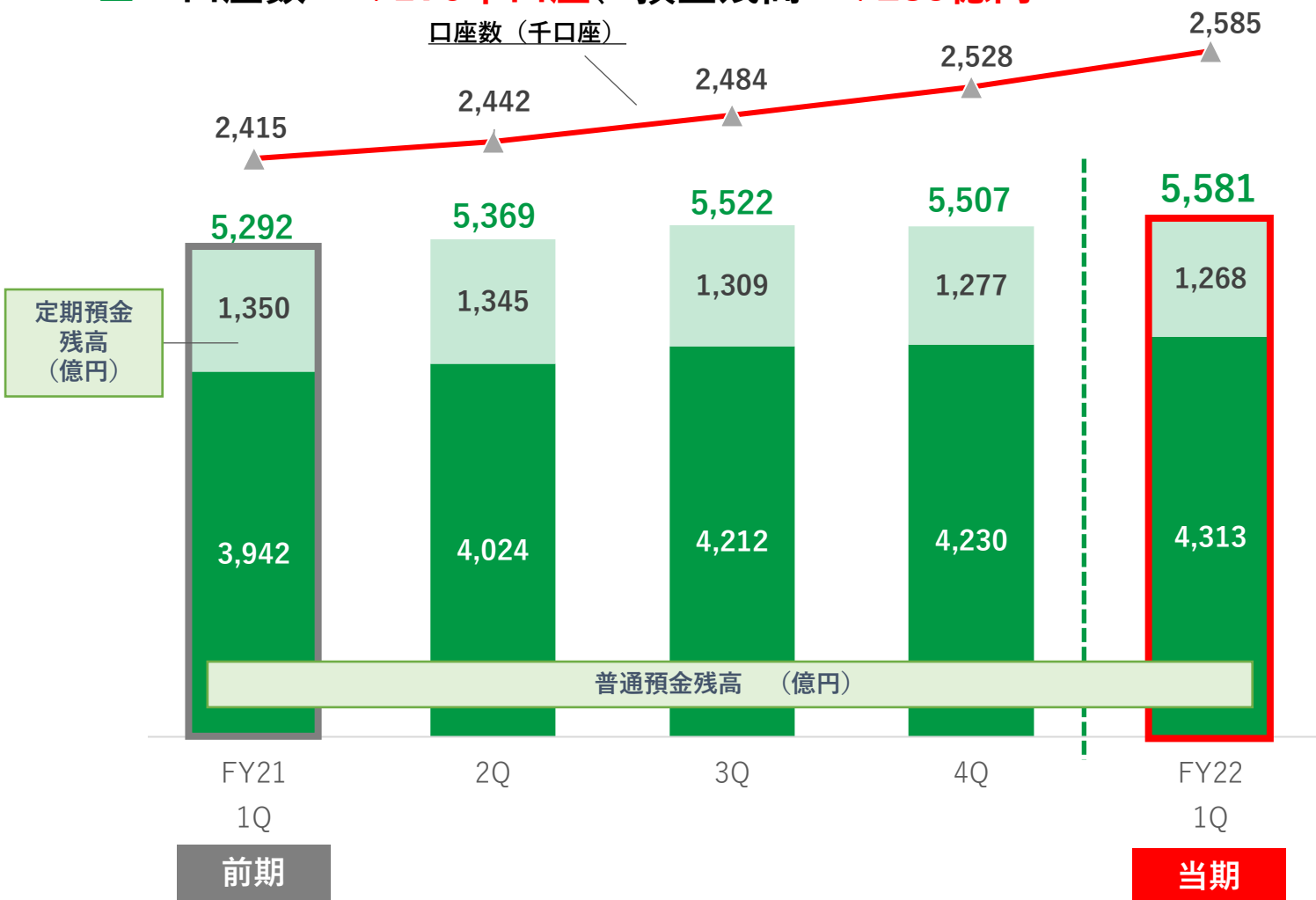
注4) FY22\_1Q ATM受入手数料単価 109.2円 ※ ATM受入手数料単価は、ATM受入手数料÷(総利用件数-ATM受入手数料収入を伴わない利用件数<売上入金等>)で算出



国内事業（預金）主要計数

口座数と預金残高の推移（個人）

■ 口座数：+170千口座、預金残高：+289億円



セブン銀行後払いサービス (2021年9月サービス・イン)



2022年度1Q(4~6月)取扱高

106億円

対2021年度4Q(1~3月)比+4億円

2022年度1Q(4~6月)取扱件数

851千件

対2021年度4Q(1~3月)比+16千件

注) 口座数と預金残高の増減に係るコメント及び数値は前年同期比

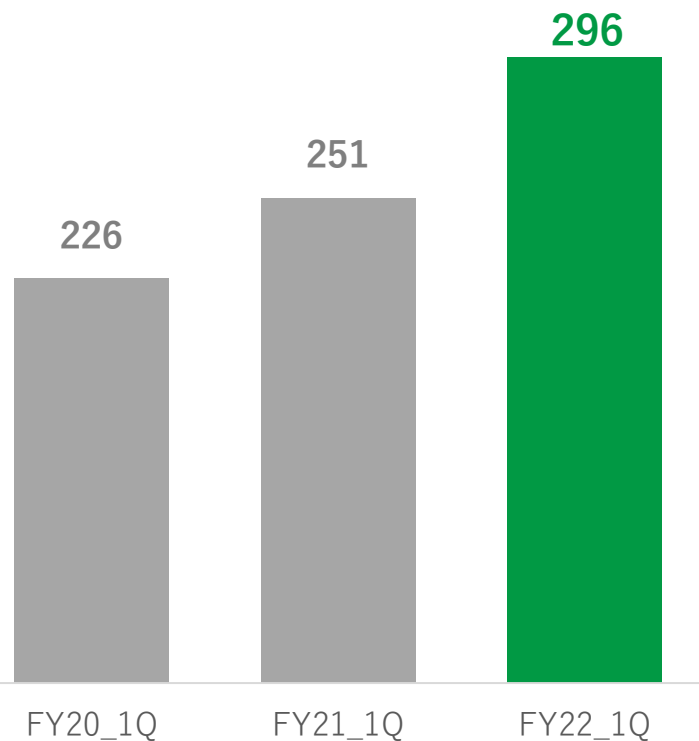
## 国内事業（金融サービス）主要計数

### 個人向けローンサービス

■ 資金需要回復等 **+45億円**

注) 含Credd Finance提供サービス

期末残高（億円）

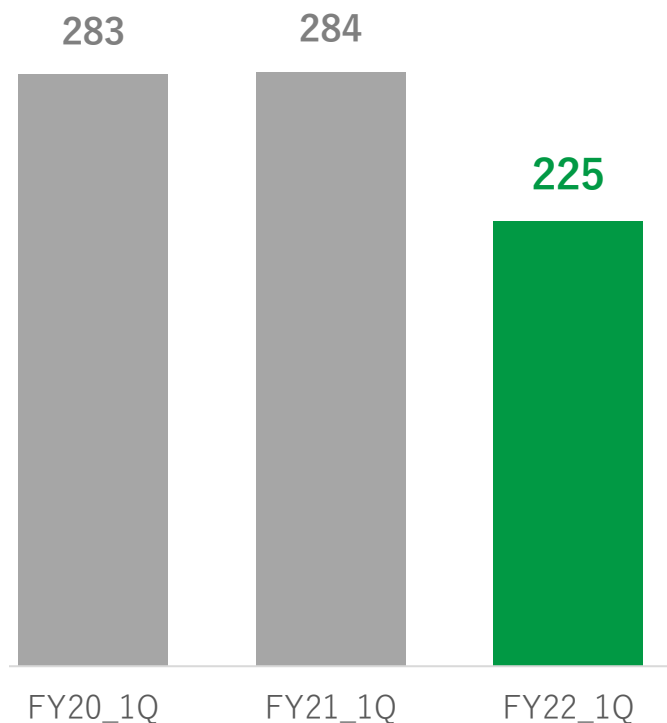


### 海外送金サービス

■ ルール厳格化等による影響  
**△59千件**

注) 含セブン・グローバルレミット提供サービス

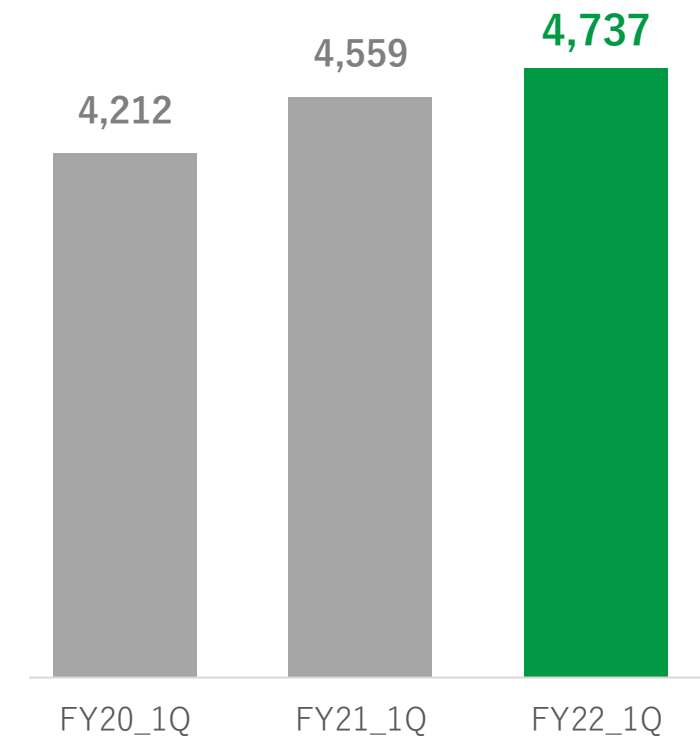
取引件数（千件）



### デビットサービス

■ 口座増による取引増  
**+178千件**

取引件数（千件）



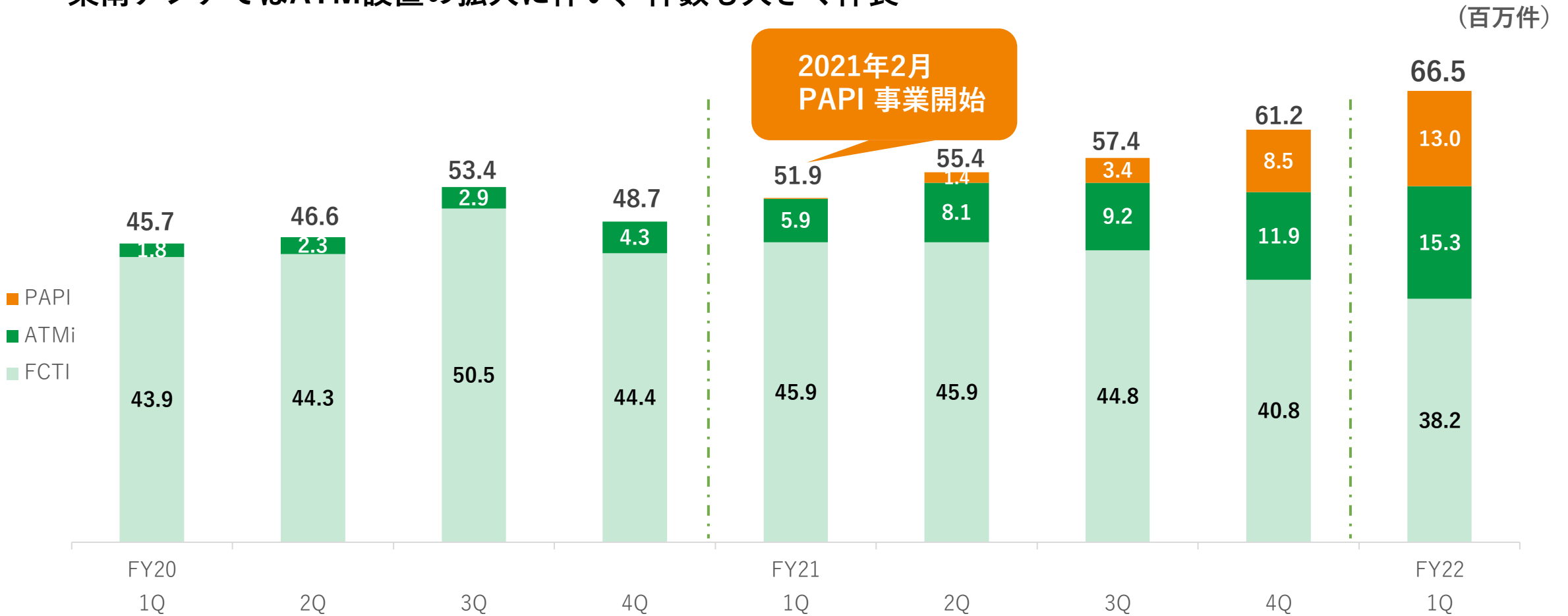
注1) 増減に係るコメント及び数値は全て前年同期比

注2) 本資料における前年差異及び前年比は全て表示単位で比較

海外事業：概況

海外事業 ATM総利用件数の推移

- 米国（FCTI）、インドネシア（ATMi）、フィリピン（PAPI）の海外3か国にてATM事業を展開  
東南アジアではATM設置の拡大に伴い、件数も大きく伸長



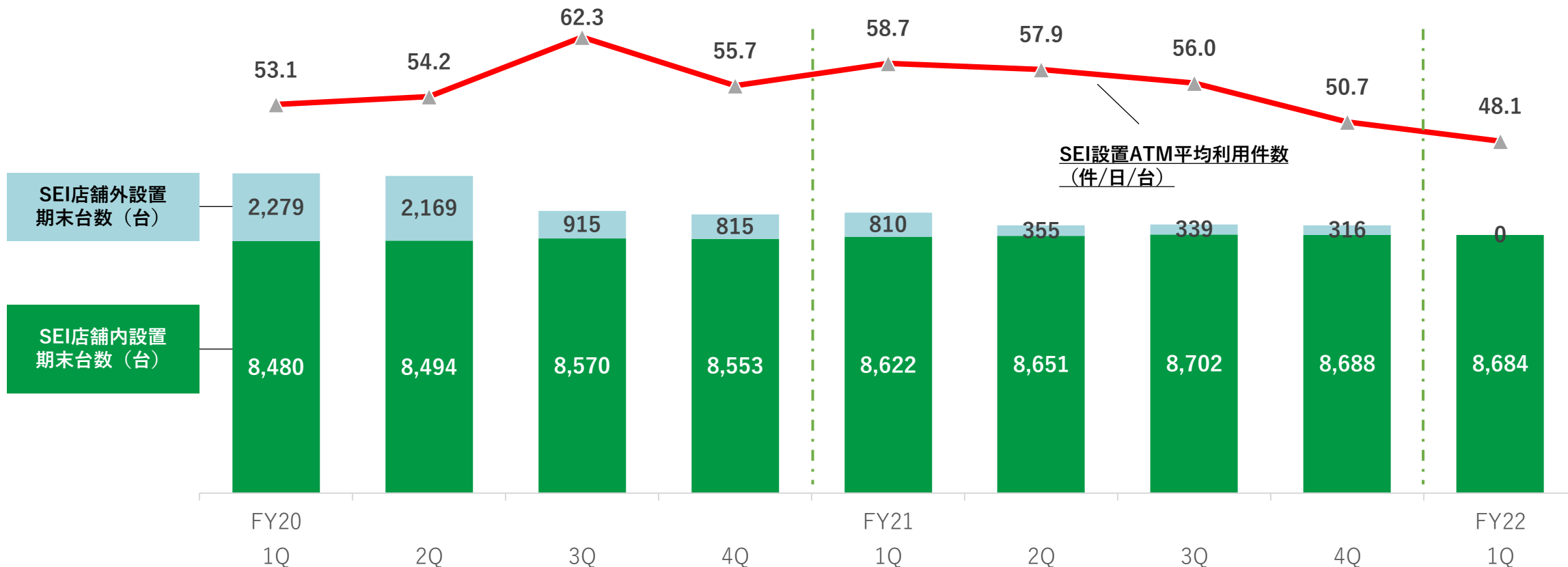
注) 1Q (1-3月)、2Q (4-6月)、3Q (7-9月)、4Q (10月-12月)

海外事業：米国

米国



SEI店舗外の不採算ATM一掃 今後はSEI設置ATMの収益多角化と新規事業に注力



注1) 米国のATM利用件数には残高照会を含む

注2) 1Q (1-3月)、2Q (4-6月)、3Q (7-9月)、4Q (10月-12月)

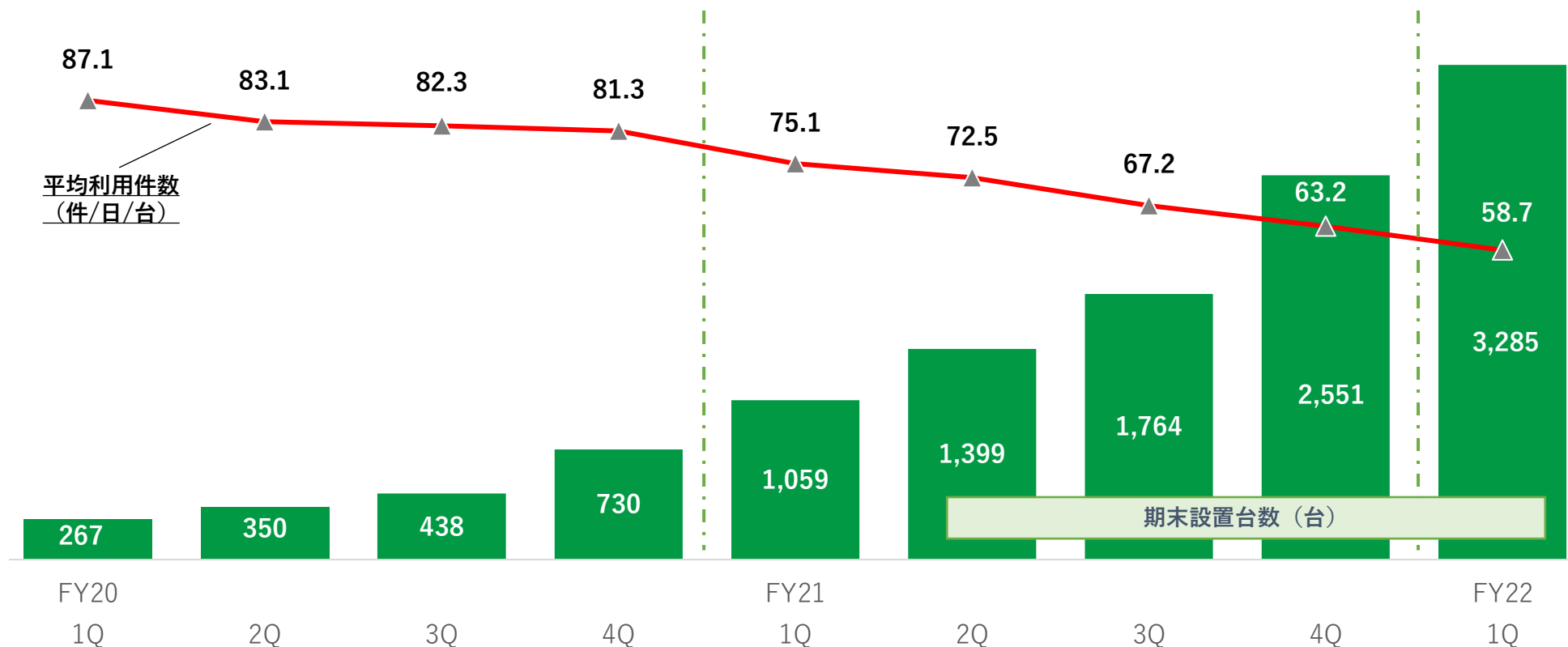
● **2022年6月末台数は8,696台 (速報値)** ※SEI店舗外ATMは撤去完了  
 ⇒ **2022年12月期計画は8,818台 (期末台数)**

海外事業：インドネシア



インドネシア

- ATM設置は順調に拡大。設置直後のATMの利用件数は低いものの、顧客認知度の向上により時間経過に伴い平均利用件数は上昇



注1) インドネシアのATM利用件数には残高照会を含む  
 注2) 1Q (1-3月)、2Q (4-6月)、3Q (7-9月)、4Q (10月-12月)

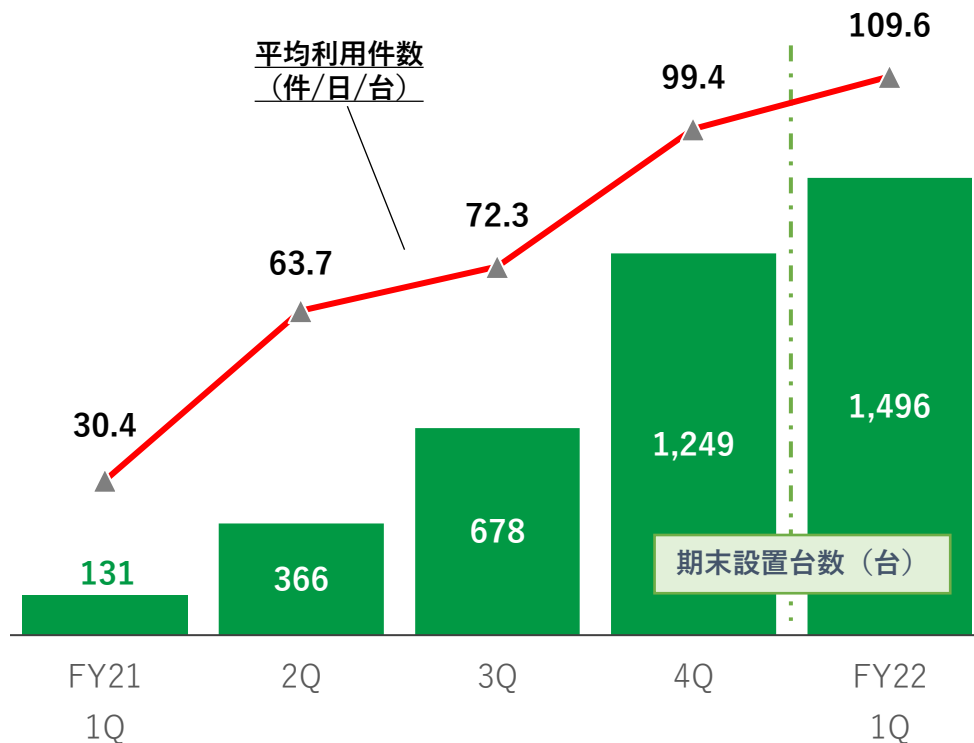
● **2022年6月末台数は4,050台 (速報値)**  
 ⇒ **2022年12月期計画は5,500台 (期末台数)**

海外事業：フィリピン

フィリピン



- ATM設置は順調に拡大。5月よりLandbankと提携を開始  
引き続き提携先獲得に注力し、件数増大を図る



- **2022年6月末台数は1,800台 (速報値)**  
⇒ **2022年12月期計画は3,050台 (期末台数)**

注1) フィリピンのATM利用件数には残高照会を含み、売上金入金を除く  
注2) 1Q (1-3月)、2Q (4-6月)、3Q (7-9月)、4Q (10月-12月)



LANDBANK



## 02 成長戦略の進捗状況

# 成長領域を見据えた戦略

## 外部環境



キャッシュレス  
決済手段の浸透



マイナンバー  
活用・給付金  
受取ニーズ



本人確認・情報  
管理の厳格化

## 戦略

### 中期経営計画

成長戦略	
現金プラットフォームからATM+への進化 強みを活かしATMに次ぐ成長領域を拡大 (事業の多角化)	
国内 事業	中核 ATMプラットフォーム戦略
	成長 リテール戦略 法人戦略
海外 事業	海外戦略

### 各種取組み

QRコード決済・  
地域通貨等への  
チャージ



新紙幣発行による  
ATM代替ニーズの  
取り込み

マイナポイント  
申込・給付金の  
ATM受取



窓口業務の合理化・  
顧客接点の強化

ATMで本人確認

## 成長領域

キャッシュレス  
時代への対応

決済額12兆円

行政給付金  
受取り

全国  
1,741  
市区町村

あらゆる  
手続き・  
認証の窓口

4兆円の  
事務コスト

注1) キャッシュレス市場規模は、QRコード決済の決済額ベース 注2) 市区町村数は、2022年7月1日時点 注3) 手続き・認証窓口の事務コストは、当社推定



# 認証機能を活かした手続受付サービスの先行利用を拡大

■ あらゆる手続き・認証の窓口となる世界を創る取組みを7月より順次拡大

銀行

住所・電話番号の届出事項変更



静岡銀行



千葉銀行

沖縄銀行

TOKYO STAR BANK



東京スター銀行

第4世代ATMの機能を活用した  
当社独自のサービス



ATM+



提携企業の拡大/  
エリア・対象台数の拡大  
(1都5県、6,000台)

金融

各種手続き・情報登録

JACCS



事業会社

チェックイン・  
会員申込

CASHARI



カードショップ

遊々亭  
YUYU-TEI

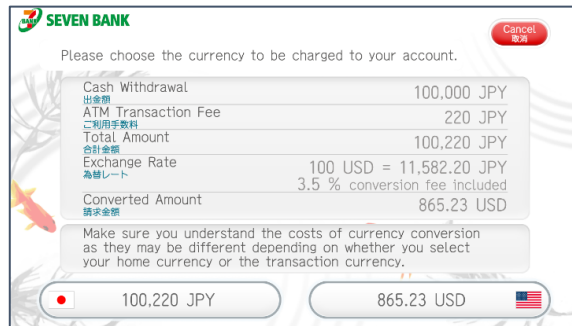
bnb+

注) 沖縄銀行は8月より、東京スター銀行は10月以降に開始予定

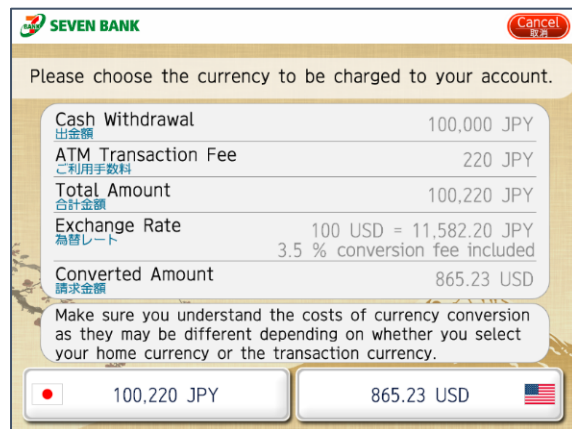
## ユーザーの利便性と収益向上に向けた新たな取組み

- 海外発行カードでの多通貨決済（DCC）サービス開始  
ATM利用時に決済通貨選択が可能  
⇒外国人旅行者の為替ニーズに対応

【第4世代ATM画面】



【第3世代ATM画面】



- 金融商品仲介サービスの開始  
投資初心者に向けた預金・投資一体のサービス提供  
⇒小売らしい機能を実装予定



2022年秋以降※  
サービスイン予定

(※) 金融商品仲介サービスは関係当局への事前相談中であり、関係当局の登録完了を前提に2022年秋以降のリリースを予定



# **03 APPENDIX**

**損益計算書<連結>**

(単位：億円)

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	
			前年差異	前年比
経常収益	334	<b>358</b>	24	107.1%
経常費用	258	<b>285</b>	27	110.4%
経常利益	76	<b>73</b>	△ 3	96.0%
純利益	54	<b>49</b>	△ 5	90.7%
EBITDA	114	<b>118</b>	4	103.5%

注1) 連結損益の為替レート

1米ドル：2022年3月期 第1四半期 = 106.09円、2023年3月期 第1四半期 = 116.34円

注2) 純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

注3) 本資料におけるEBITDAは全て経常利益+減価償却費

注4) 本資料における前年差異及び前年比は全て表示単位で比較

**損益計算書<セブン銀行単体>**

(単位：億円)

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	
			前年差異	前年比
経常収益	273	<b>290</b>	17	106.2%
うちATM受入手数料	241	<b>254</b>	13	105.3%
経常費用	198	<b>214</b>	16	108.0%
経常利益	74	<b>76</b>	2	102.7%
純利益	50	<b>52</b>	2	104.0%
EBITDA	110	<b>116</b>	6	105.4%

期末ATM設置台数 (台)	25,785	<b>26,364</b>	579	102.2%
ATM受入手数料単価 (円)	110.4	<b>109.2</b>	△ 1.2	98.9%
平均利用件数 (件/台/日)	95.7	<b>99.7</b>	4.0	104.1%
総利用件数 (百万件)	223	<b>237</b>	14	106.2%

注1) 本資料におけるEBITDAは全て経常利益+減価償却費

注2) 本資料における前年差異及び前年比は全て表示単位で比較

**損益計算書<FCTI単体>**

(単位：百万米\$)

	2021年12月期 第1四半期	2022年12月期 第1四半期	2022年12月期 第1四半期	
			前年差異	前年比
経常収益	52.6	<b>44.9</b>	△ 7.7	85.3%
経常費用	46.2	<b>44.1</b>	△ 2.1	95.4%
経常利益	6.3	<b>0.8</b>	△ 5.5	12.6%
純利益	6.1	<b>0.5</b>	△ 5.6	8.1%
EBITDA	7.9	<b>2.4</b>	△ 5.5	30.3%
期末ATM設置台数 (台)	9,432	<b>8,684</b>	△ 748	92.0%
うちSEI設置台数	8,622	<b>8,684</b>	62	100.7%
平均利用件数 (件/台/日)	54.2	<b>48.1</b>	△ 6.1	88.7%
うちSEI設置	58.7	<b>48.1</b>	△ 10.6	81.9%
総利用件数 (百万件)	45.9	<b>38.2</b>	△ 7.7	83.2%

注1) 2022年6月末時点のATM台数=8,696台(速報値、すべてSEI内)

注2) FCTIの1Qは、1月-3月

注3) 本資料における前年差異及び前年比は全て表示単位で比較

**損益計算書<その他子会社>**

(単位：百万円)



	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	
			前年差異	前年比
経常収益	437	<b>610</b>	173	139.5%
経常費用	478	<b>729</b>	251	152.5%
経常利益	△ 41	△ <b>118</b>	△ 77	—
純利益	△ 28	△ <b>78</b>	△ 50	—

(単位：百万円)



	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	
			前年差異	前年比
経常収益	102	<b>116</b>	14	113.7%
経常費用	73	<b>95</b>	22	130.1%
経常利益	28	<b>20</b>	△ 8	71.4%
純利益	24	<b>19</b>	△ 5	79.1%

注) 本資料における前年差異及び前年比は全て表示単位で比較

**損益計算書<その他子会社>**

(単位：百万円)



PT. Abadi Tambah Mulia Internasional

	2021年12月期 第1四半期	2022年12月期 第1四半期	2022年12月期 第1四半期	
			前年差異	前年比
経常収益	248	721	473	290.7%
経常費用	174	580	406	333.3%
経常利益	73	141	68	193.1%
純利益	73	141	68	193.1%

(単位：百万円)



	2021年12月期 第1四半期	2022年12月期 第1四半期	2022年12月期 第1四半期	
			前年差異	前年比
経常収益	11	414	403	3,763.6%
経常費用	76	464	388	610.5%
経常利益	△ 65	△ 50	15	—
純利益	△ 65	△ 50	15	—

注1) 為替レート

100インドネシアルピア 2021年12月期第1四半期実績=0.749円、2022年12月期第1四半期実績=0.811円

1フィリピンペソ 2021年12月期第1四半期実績=2.194円、2022年12月期第1四半期実績=2.256円

注2) ATMi、PAPIの1Qは、1月-3月

注3) 本資料における前年差異及び前年比は全て表示単位で比較





本資料には、株式会社セブン銀行及びその連結子会社等の業績に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、具体的な歴史的事実を除き、本資料の作成時点において取得可能な情報に基づく予測等を基礎として記載されています。これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を置いています。これらの記述及び前提（仮定）は主観的なものであり、かつ、様々なリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想等とは異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、システム障害、災害、犯罪、その他事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、本資料に含まれる当社及びその連結子会社等以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。